

【下水道ビジョン】 前回の主な質問事項

	ページ		内容	回答
	旧	新		
1	2	2	SDGsの目標9と13は直接関係がないのではないかと。また、どのターゲットに該当するのか。	SDGsについては、「第8次刈谷市総合計画」で下水道事業に関連する目標を示しており、目標9と13も関連する目標として位置付けています。目標9については、ターゲット9.1「すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。」が該当すると考えています。また、目標13については、ターゲット13.1「すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応力を強化する。」が該当すると考えています。
2	5	5	節水型トイレなどの普及に伴い、一人当たりの水道使用量が減少していることにも言及してはどうか。	節水機器の普及などによって有収水量が減少していく見込みであることは、P18「1 下水道接続人口と有収水量の推計」に記載しています。なお、令和3年度の有収水量は前年度よりも減少しましたが、事業場や飲食店などの使用水量が減少したことが主な原因であると考えられます。
3	5	5	人口のみを集計しているにもかかわらず、「住民基本台帳のデータをGISで集計する」という表現は、個人情報を使用しているという誤解を招くのではないかと。	「地理情報システム（GIS）を使用して住民基本台帳の人口を集計する」という表現に修正しました。
4	8	8	雨水ポンプ場の電気設備について、下水道ビジョンの期間では、適切に管理を行うだけで、更新の必要はないのか。	雨水ポンプ場は、定期的な点検や修繕などによる適切な維持管理を行ったうえで、「刈谷市下水道ストックマネジメント計画」に基づいて、令和4年度から計画的に機械設備や電気設備の更新を進めています。P20「◎予防保全型維持管理の推進」の中の「下水道施設」には、雨水ポンプ場も含まれています。

【下水道ビジョン】 前回の主な質問事項

	ページ		内容	回答
	旧	新		
5	8	8	雨水ポンプ場の3つは亀城、市原、小垣江にあるということだが、この3つがいずれも近い距離にあるのは何か理由があるのか。 特に北部の地域に雨水ポンプ場がなくても支障はないのか。	雨水ポンプ場は、雨水を自然に排水することができない地盤の低い地域の河川沿いに設置することから、3箇所とも同じような地形となっており、比較的近い範囲に集中しています。 また、下水道施設である雨水ポンプ場のほかにも、同等の機能を持つ排水機場という施設が市内各所に29箇所あり、市街地や農地の浸水を防ぐ役割を担っています。
6	10, 11	10, 11	※印が付いている「汚水管きよ」、「特定都市河川浸水被害対策法」、「境川・猿渡川流域水害対策計画」が用語集に記載されていない。	「汚水管きよ」は「重要な汚水管きよ」として用語集P40に記載していますが、分かりやすいように「」で囲いました。 「特定都市河川浸水被害対策法」は用語集P41に記載しています。 「境川・猿渡川流域水害対策計画」は「流域水害対策計画」として用語集P42に記載していましたが、「境川・猿渡川流域水害対策計画」に変更しました。
7	11	11	雨水貯留施設の整備計画が何m ³ で、4,600m ³ が何%に相当するかを記載した方がよいのではないかと。	下水道基本計画（雨水）の見直しを検討しているため、現計画の目標貯留量は記載せず、整備済みの貯留量のみを記載しています。
8	11	11	雨水貯留施設4,600m ³ の整備が完了しているとあるが、目標の貯留量は記載しないのか。	
9	14	14	市街化調整区域の下水道接続率が低いのは、単に整備後の日が浅いからか、市街化調整区域特有の事情により下水道接続率が低くなっているのか、どのように考えているのか。	市街化調整区域の下水道接続率が低い理由として、整備後の日が浅いことも原因の一つであると考えられますが、市街化区域の下水道接続率が順調に上昇しているのに対し、市街化調整区域の下水道接続率は停滞しています。 明確な理由が不明であるため、今後も下水道接続率の推移を注視し、対策の検討を行っていきます。

【下水道ビジョン】 前回の主な質問事項

	ページ		内容	回答
	旧	新		
10	14	14	「近年、整備を進めている市街化調整区域」とは、具体的にどのあたりのことを指すのかを示すとわかりやすいのではないかと。	「近年、整備を進めている市北部の市街化調整区域」という表現に修正しました。
11	15	15	他団体も刈谷市同様、コロナ禍での減免施策を行っている可能性があることから、他団体との比較は決算値で行うのが妥当ではないかと。その上で、基本使用料免除分を考慮した経費回収率（＝例年ベースの値）を示す方がよいのではないかと。	本市のほかにも下水道使用料の減免を行った団体があることは把握していますが、本市の令和2年度の経費回収率は例年よりも10%ほど低くなっており、この数値で比較することで誤解を招くおそれがあることから、実質的な経費回収率で比較を行い、決算値による経費回収率は注意書きとしています。
12	15	15	表「県内自治体の1か月20㎡当たり下水道使用料」に「令和4年（2022年）1月時点」という記載があるが、本文中にも記載した方がよいのではないかと。	ご指摘のとおり、P15「◎経費回収率」の本文に記載しました。また、「令和4年（2022年）1月時点」から「令和4年（2022年）3月末時点」に修正しました。
13	21	21	下水道の事業について市民の関心度が低いのは否めない。刈谷市のホームページを見ている方もまだまだ少ないと思う。イメージアップ的な情報を載せるのは賛成だが、とりあえず市民には下水道料金が他と比べて低いとか（なぜ低いのかを含め）下水道に接続していない人が接続しないでいると料金が上がることになるということをほのめかしてもよいのではないかと。	下水道事業のイメージアップにつながる情報とあわせて、本市の下水道事業の経営状況や下水道使用料改定の検証過程などの情報も積極的に発信していきます。
14	23	23	維持管理計画は「刈谷市下水道ストックマネジメント計画」に、地震対策は「刈谷市下水道総合地震対策計画」によるという記載があるが、管理指標・目標についても、浸水対策は「刈谷市雨水対策マスタープラン」において管理指標・目標を設定し、進捗管理を行っている旨の記載があった方がよいのではないかと。	本市の浸水対策は、「刈谷市雨水対策マスタープラン」において管理指標を設定して進捗管理を行っているところですが、今後は下水道基本計画（雨水）の見直しに合わせて「刈谷市雨水対策マスタープラン」の見直しも検討していきますので、その内容を考慮して下水道ビジョンへの記載を検討していきます。

【下水道ビジョン】 前回の主な質問事項

	ページ		内容	回答
	旧	新		
15	35	35	<p>問8の考察として、「～多くの市民には情報が十分に届いていないことが鮮明になりました。」とあるが、表現が厳しすぎないか。</p> <p>また、問9の考察として、「～もっと多くの方に情報を発信することが求められます。」とあるが、ホームページや市民だよりの充足度や見やすさについての質問の考察としては違和感を感じる。</p>	<p>問8の考察を「～より多くの市民に情報を届ける必要があります。」に変更しました。</p> <p>また、問9の考察を「～経営状況などの必要な情報を分かりやすく発信することが求められます。」に変更しました。</p>